

# 生活環境委員会 行政視察報告書

1. 日時：平成 29 年 5 月 15 日（月）～17 日（水）
2. 参加者：山田丈二（委員長）・成川正幸（副委員長）  
辻泰久・伊東景治・小柳勇人
3. 報告者：成川正幸
4. 視察及び視察事項
  - ・ 三重県いなべ市  
「どこでも子育て支援！各種子育て支援事業」について
  - ・ 兵庫県赤穂市  
「赤穂市民病院」自治体病院の役割について
  - ・ YKK 六甲(株)（兵庫県神戸市）  
「障がい者就労」について

黒部市議会

## 【兵庫県いなべ市】

視察項目：「どこでも子育て支援！各種子育て支援事業について」

日時：平成 29 年 5 月 15 日 13：00～15：00

場所：いなべ市役所 大安庁舎

大安子育て支援センター、笠間保育園

目的：行政サービスの品質向上に向けて創意工夫（挑戦）し続ける活動とその理念に照らし合わせて市が認定した行政サービス「いなべブランド」の子育て支援を視察。

### ○概要

人口：44,179 人（H29.3.31）

#### ◎主な取組

- ・子育て支援センター5 か所。
- ・ブックスタート（6 か月児対象）ブック Re スタート（満 2 歳児対象）・・・絵本の読み聞かせ。参加出来なかった方へは保育士が家庭訪問し絵本プレゼント。
- ・1 歳おめでとう訪問・・・保育士が全戸訪問し、足型を贈る。
- ・出前ひろば・テントひろば・・・「おでかけ GO（号）」にて公民館や公園に出向く。
- ・子育てサークル支援
- ・講演会
- ・保健師による身体検査・・・いつも遊んでいる施設での身体計測。保護者の育児計測。
- ・健康教育（保健師・栄養士）・・・健康講座で職についての相談がある。
- ・土曜・日曜日開放（月 1 回）・・・父親が参加しやすいように。月 1 回でどこかで参加できる。

### ○子育て支援事業について

合併時より子供の数 84. 3%と減少している。

市長の方針で幼稚園を作らず、全て保育園。保育所でも教育をする。

昨年 10 月から情報提供の方法として、「出産おめでとうコール」（電話が繋がらなかつたら手紙を送る）、「こんにちは赤ちゃん訪問」を行い、子育て支援センター事業の紹介をしている。

赤ちゃん訪問時に 3 種類（「お母さんへの質問票」、「EPDS」、「赤ちゃんへの気持ち質問票」）の質問票を書いてもらう。

車がない。発達が遅いなどの子ども、家庭には 1 歳 6 ヶ月検診まで 3 回訪問している。

H18 母親のメンタルヘルス事業を追加し、妊娠時からの支援対策を行っている。

転入児訪問は、転入者は、土地勘もなく孤立する可能性が高いことから行っている。

## ○主な質疑

問：保健師さん達の情報共有は。

答：3ヶ月に一回情報交換している。要支援親子は、早期発見だけでは支援できない。

問：各子育て支援センターに支援の格差や連携はあるのか。また、それぞれに特徴があるのか？

答：ワーキング会議、職員会議など毎月会議を開催しているので連携が取れて格差はない。

地域応援団が行う行事に特徴がある。(手作りおやつ、カレー作り等)

問：月に一度は土日開所を行うことの効果は。

答：父親に子育てを促している。各支援センターで開所日を違わせており、月にどこかで参加できるようになっている。

問：「満1歳おめでとうございます」と家庭訪問は誰がしているのか。

答：職員がおこなっている。

問：半年、1歳、2歳と3度のアウトリーチは凄いなと思うが。

答：孤立しないように親との関係作りを行っている。

問：出前広場の参加状況は。

答：おでかけ号を使用し、170回で1回に5~20組が参加している。地元企業寄付金で運営。

問：子育て支援センターのアクセスランキングは。

答：子育て支援センター1年間で1831件で113/20000位

問：「気になる」家庭への直接ポスティングとは。

答：チラシ配布などを行っている。

## ○写真



おでかけ GO



大安子育て支援センター



いなべ市立 笠間保育園

## 【兵庫県赤穂市】

赤穂市民病院行政視察「自治体病院としての役割について」

日時：平成 29 年 5 月 16 日 14：00～16：00

場所：赤穂市民病院

目的：同じ自治体病院としての取り組みを視察。

○概要：人口 48,988 人（H29.3.31）

○病院概要

約 20 万人の兵庫県西播磨二次医療圏域の中核病院で地域医療支援病院、地域がん連携拠点病院でもある。

院是は、「恕（じょ）」

基本理念は、「良い医療を、効率的に、地域住民とともに」

規模は、21 診療科、396 床（一般病床 392 床、感染症病床 4 床）

昨年 12 月地域包括ケア病棟開設

○主な質疑

問：患者教室の取り組み状況は。

対象は患者、一般市民で糖尿病教室は年 3 回 30~100 名、肝臓病教室は年 3 回 10~20 名、介護教室は年 2 回 10~20 名参加している。

問：託児所の利用状況はどうか

答：平成 28 年度の稼働日数は 308 日、4,986 名（対前年比 1.6 倍）、病児保育 50 名。

※定員：普通保育 40 名、夜間保育 6 名、一時保育 3 名

問：病院利用者のうち市民の割合

答：平成 28 年度：外来市内比率 62.9%、入院市内比率 57.1%

西播磨圏域の中核病院 平成 16 年度診療報酬制度変更で外来患者が減少した。

問：病診連携事業についてはどうか。

答：平成 28 年度 紹介率：60.25%、逆紹介率 100.25%

問：医師不足 研修医の集め方と仕事の仕方はどうか。

答：民間医局のフェアに出展している。総合診療の専門医がいる事で総合診療を勉強をしにくる方がいる。神戸大学と京大と提携。県要請医が廻っている

問：市内外の料金の差はあるのか。

答：市外患者は、お産料 3 割増。それ以外は平等である。

問：カルテなどの地域連携はあるのか。

答：電子カルテは条例でひっかかっている所以で中断。模索中。

問：出産入院時の食事は他と同じか。

答：お祝い膳として一回、ロイヤルホテルの食事を提供している。

問：母子同室の場合、入室制限はあるのか。

答：特にない。

○写真



ステーションに名前がついている。



地域医療施設の紹介パンフ



## 【YKK六甲株式会社】(兵庫県神戸市)

視察項目：障がい者就労について

日時：平成29年5月17日(水) 9:40~11:30

場所：神戸市東灘区向洋町西4-2

目的：障がい者の雇用を企業としてどのように取り組まれているのか視察。

経営方針~明るく やさしく たくましく~

働くというのは人間らしく生きることの原点だと思います。

働きたくて働く力がありながら働く場の少ない重い障害のある人の就労を支援するためにYKK六甲株式会社は設立されました。

障害の持つ人たちが人格を認め合い、お互いの力を補いながらそれぞれの力を生かしつつ、自分の持つ能力を最大限に発揮して経済的な自立を果たし、また多くの社会参加の機会も得て、自分の意志で人生の設計が描けるような夢のある会社を目指しています。

### ○YKK六甲株の概要

130あまりの会社がYKKAPに統合した際に、障害者雇用率が0.55%に減少。障害者雇用を推進するため1998年設立、2004年よりグループ適用開始した。

「特定子会社制度」としては、平成28年6月1日現在、全国で448社で71番目に設立。

### ○YKKの障がい者雇用グループ会社6社

親会社 ①YKK(株)、特例子会社 ②YKK六甲(株)、関係会社 ③YKKAP(株)、④YKKファスニングプロダクツ販売(株)、⑤YKKビジネスサポート(株)、⑥黒部クリーンアンドグリーンサービス(株)

### ○2017年3月末現在 雇用率2.37%、雇用数428.5ポイント

障がい者は、特例子会社だけに雇用している会社が多いが、YKKはそうではなく、それぞれが2%をキープしている。

### ○人事制度、福利厚生制度は可能な限りYKK(株)に準じている。

障害を持っている方も自立することである。

支援学校から就業する方のほとんどは、「物流」、「食堂」、「掃除」、「情報」

今、会議室には9人いるが、同じなのは男だけ。ダイバーシティとはそういうもの

「障がいも個性である」

### ○主な質疑

問：ラインなので最終商品が見えないと「やりがい」が出ないのではないかと。

答：昨年、黒部に25人のうち22名が行って自分たちが作成したものがどのように作られているのか見てきた。

問：サイト FamilyM の反応とその利用状況は。

答：障がい者同士のコミュニティの場。入会するには会員の正体が必要。三田市と連携。

問：ハンディキャップのある方を雇用する苦勞は。

答：ない。

問：職場定着率はどれくらいなのか。

答：離職者ゼロ。

問：仕事を特定しているが、長期休暇の場合どうなるのか。

答：代替はできる。

### ○工場見学 写真

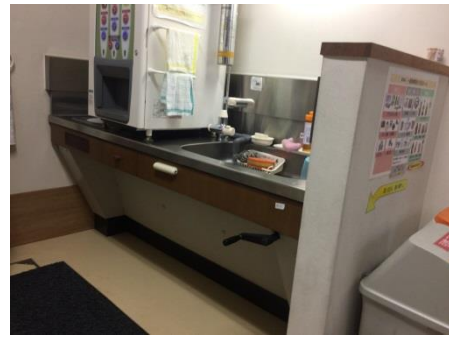


商品説明





食堂：机の高さが違う。



台所：シンク高さをハンドル調整



ビオトープ



湿度調整でスプリンクラー作動

## ○所感

### ・いなべ市

人口規模が黒部市と変わらない「いなべ市」だが、特徴ある施策を「いなべブランド」として PR する取り組みは、とても参考になりました。

子育て支援センター5か所、おでかけ GO による出前ひろば。アウトリーチも3歳まで3回と手厚い支援をして、安心して子育てが出来る環境を作り出していました。

市内の幼稚園を無くして全て保育園にする取り組みも特徴的でした。

### ・赤穂市

人口、病院ベッド数など規模が同じような感じであった赤穂市民病院を視察した。印象的だったのが、患者教室と題して、病院内において勉強会を開いているところ。

また、出産時のお祝いとして近隣ホテルの食事を提供するというのも面白い取り組みだと思いました。

それから市民病院医師の市内開業が多いとのこと。院内託児所の取り組みなど、人を大切にする風土が出来ているのかもしれないと思いました。

### ・YKK 六甲(株)

今まで福祉作業所などをいくつも見てきているが、ここは全く違う光景だと感じた。職員は、ハンディキャップのあるにもかかわらず、慣れた手つきでの作業。自分で出来る事は自分でする自立した職場。時間が空くと自ら考えて工夫しての作業。給与も人事も YKK 株と同等で、職場定着率 100%の職場は違うと感じました。障がいも個性なんだという社長の言葉が印象的でした。